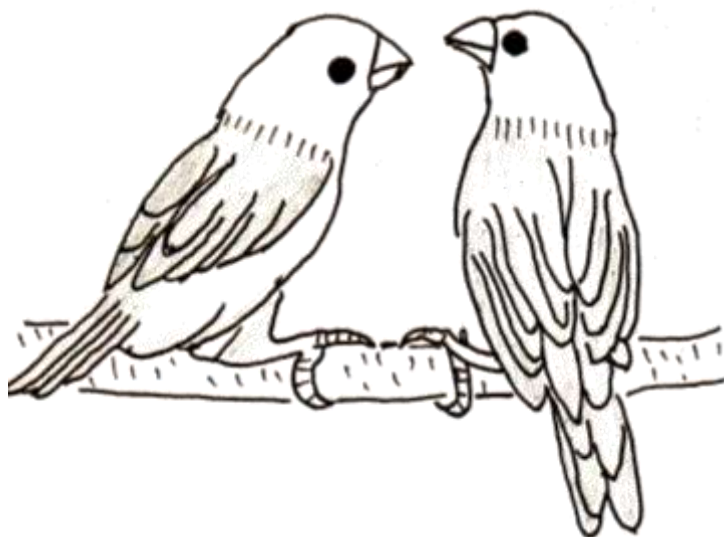


さえずり

作品集第 28 号



相模原失語症友の会
平成 28 年度



目

次



(敬称略)

◆ 巻頭言	相模原失語症友の会	大堀 孝章
--------------	-----------	-------

◆ **作品**

書	I 古佛心	II 人生感	内山 行央	1
	I 和敬清寂		久田 稜	3
	I 舞	II 運	眞琴 繁子	4
	I 春草夢	II 運	板垣 暁雄	6
	I 花		大野 敦子	8
絵	JR 小海線		小川 治男	9
	ある山と川		猶原 晃	10
	ボケの花・くちなしの花		古山 久子	11
	手作り年賀状 I、II		南の会の皆さん	12
	手作り年賀状 III		中央の会の皆さん	14
作文	市政功労表彰を受賞		中澤 秀樹	15
	平成 28 年度バス旅行会に参加して		太田 忠良	16

◆ **例会担当 言語聴覚士の皆さんより**

北里大学東病院	上溝の歴史	安田 菜穂	17
相模原協同病院	仕事と趣味と	樋口 裕美	18
さがみりハビリテーション病院	失語症友の会に参加して	荒井 順子	19
東芝林間病院	一年を振り返って	菅原 洋翔	20

◆ **日ごろお世話になっているボランティアの方々より**

相模原市立博物館を見学	松木 蘭 一道	21
手芸作品 藍染め布 ふくろうのブローチ		
手びねり つまみ三地蔵様	田口 さき子	22

◆ **南の会 音楽療法担当の音楽療法士さんより**

さがみりハビリテーション病院 有言実行の 2016 年	越善 由佳	23
ディサービス喜多 音でつなぐ、音でつながる瞬間	平野 香穂	24

◆ **昭和音楽大学学生さんより**

昭和音楽大学音楽療法コース 4 年生 ありがとうございます。	松田 春菜	25
ある日の音楽療法風景		26

◆ **習字教室の指導担当 鈴木恵子先生より**

ボランティアグループ 和みなみ		
書道とのふれあい	鈴木恵子	27

◆ この 1 年を振り返って	古山 高	28
◆ 平成 28 年度バスハイク		29
◆ 水槽で元気に泳ぐ魚たち	花輪 義昭	30
◆ 相模原市主催障害者作品展		31
◆ 南の会・中央の会 新年食事会		32

◆ 編集後記	古山 高	
--------	------	--

◆ 裏表紙		
-------	--	--

相模原失語症友の会

相模原失語症友の会
会長 大堀 孝章

小生は平成元年 10 月 26 日、脳梗塞を発症し失語症を患いました。

北里大学病院に入院して言語聴覚士(ST)、理学療法士(PT)を受けて翌年の正月 8 日に退院、9 日に七沢リハビリテーション病院に入院、ST・PT・作業療法士(OT)によるリハビリ受けまして、身体は右上上下麻痺のまま杖を付いて歩き、5 月 27 日に退院しましたが、リハビリテーション病院の ST の先生から相模原に失語症友の会があると聞きました。

退院をしましたが、この後自動車運転免許証が必要になり、病气してから 8 ヶ月後の 6 月に二俣川にある県運転免許試験場で障害者の認定を受けました。これで、何処へでも出掛けられます。北里大学東病院に行きまして脳神経内科の先生にお会いしました。月に 1 回。ST の先生にもお会いしました。週 1 回で決まりました。

失語症友の会に入会いたしましたのは平成 2 年 8 月中央公民館、人数は 10 名だった様な記憶で、ボランティアの方は石塚さん、白濱さんの女性 2 人、会長は近村さんでした。その後、岩崎さんと(上鶴間の方)親しくなりましたが茨城県へ単身出張し金曜日の夜に戻り第 3 土曜日例会に参加をしていました。感心だと思っていました。相模原失語症友の会は会長の近村さん、ボランティアの石塚さんの 2 人で東京の失語症友の会を再三再四勉強して昭和 59 年に作られました。月 1 回の友の会は 13 時から 15 時の 2 時間楽しく過ごしました。



平成 7 年 2 月 15 日に病气がもとで初代会長の近村さんがお亡くなりになりました。平成 6 年 4 月から、2 代目の会長に木下さんがなり、「さえずり」作品集は木下さんの書体です。「もみぢ」は近村さんの元気の時の発行です(写真 1)。

(写真 1)

県の失語症は横浜失語症連絡協議会としての会議に岩崎さんが出席していました。全国失語症友の会連合会(現在は日本失語症協議会)で年 1 回の全国大会イン長野を始め翌年からは埼玉県大宮、東京都新宿、会長の木下さん先頭にボランティアの方、友の会の方が家族と共に 10 数名参加をしました。この他に小生は札幌、沖縄等 10 回以上行きました。

3 年間務めてきた木下さんは会長を辞する事で、3 代目会長は小生が引き受ける事となりました。ボランティアの石塚さん、白濱さん、役員会の方々の迷惑をお掛けするかも知れません。後日、役員会の席上で相模原市障害児者福祉団体連絡協議会(連協)に失語症友の会に入れてもらえたら良いだろうなと思いました。連協に連絡しても連協は中々「良し」とは言ってくれません。白濱さんと小生は困りました。相模原市社会福祉協議会ボランティアセンター課長さん(女性)の相談をしました。平成 12 年より連協の会員となりました。会議には白濱さんと小生が出席しましたが小生が失語症になって以来、書く、計算、会話は苦手で白濱さんに頼る次第です。

8 年間、会長して務めることが出来ました。残念でながら果たせなかった事がありました。第 12 回全国大会イン神奈川を見る事が出来ませんでした。その理由は 3 日前より血圧が上がり中々低くはなりませんでした。横浜失語症連絡協議会(後日、神奈川失語症連絡協議会)の会長は三輪さん、副会長は小生、運営委員の数名程おりました。2 年間の出し物を考えて来ましたが、小生の体調不良のため欠席で運営委員の方々、会長の三輪さんには迷惑をお掛けしました。参加を致しました相模原失語症友の会の皆様方、ボランティアの石塚さん、白濱さんには、今も感謝しております。

平成 17 年、4 代目の会長は阿部さんです。会報はもとより県失語連、全国失語症友の会連合会の評議員をしておりました。我が友の会としてはさがみりハビリテーション病院の市川先生(ST)が初めて全国大会イン徳島・香川に出席、阿部会長、岩崎夫妻、小生も参加しました。阿部会長と小生は名古屋・沖縄・新潟にも参加をしました。

役員会(毎月・中央の会の翌週火曜日)の時、相模原市社会福祉協議会(社協)から失語症友の会より啓発運動をして欲しい旨の件、白濱さんより聞かされました。白濱さんは社協のボランティアセンターに勤めていた関係もありまして阿部会長と共に、さがみりハビリテーション病院の市川先生に依頼しまして市民会館で講座を開きました。6 年間も続けられた阿部会長は卒業する事になりました。小生してはまだまだ続けて欲しかったです。

5代目の会長を決めることが一番の肝心な事と思われます。副会長、会計、幹事、監査とまとまりました。副会長の古山さんの御主人様が後押するから、会長をもう一度やって見てはどうだろうかと問いかけて来ました。小生も考えぬいて1年間だけ会長を引き受ける事となりました。平成23年の春でした。県失語連の会議(毎月1回)にも出席しました。その他、行政、社協の会議は古山さん(御主人)と小生が出席しました。古山氏は事務局として数多くの書類作成を一人で頑張ってくださいました。後日、小生に古山氏は県失語連の会議、連協の会議と分けて出られる様に話がありました。小生の健康を考えての事だと分かり、連協の会議を古山氏が引き受けてくれました。感謝しております。

3年後、平成25年11月24日(日)13:00~16:00 ボーノ相模大野サウスモール3階 ユニコムさがみはらセミナールーム2において、連協の研修会で「失語症の正しい理解と接し方の実践講座」が開催されました。さがみりハビリテーション病院の市川先生が講演をしてくれました。その日受講者を含む関係者は100名以上超えました。

さらに3年後、今一度中央地区で平成28年2月13日(土) 13:00~16:00 相模原市民会館2階 第2回大会議室 NPO法人れんきょう 平成27年度公開講座研修会に於いて「失語症の正しい理解と接し方の実践講座」が開催されました(写真2)。さがみりハビリテーション病院の市川先生より、「失語症の理解と支援~コミュニケーション・バリアフリーを目指して」講演がありました。前回と今回も行政の方々・れんきょうの方々・各病院の方々・家族の方々に心より深く感謝を申し上げます。

相模原失語症友の会の発展することを祈念いたしまして、乱文乱筆にて筆をおきます。

(写真2)「失語症の正しい理解と接し方の実践講座」の様子



中央の会 内山 行央さん作品 I 書

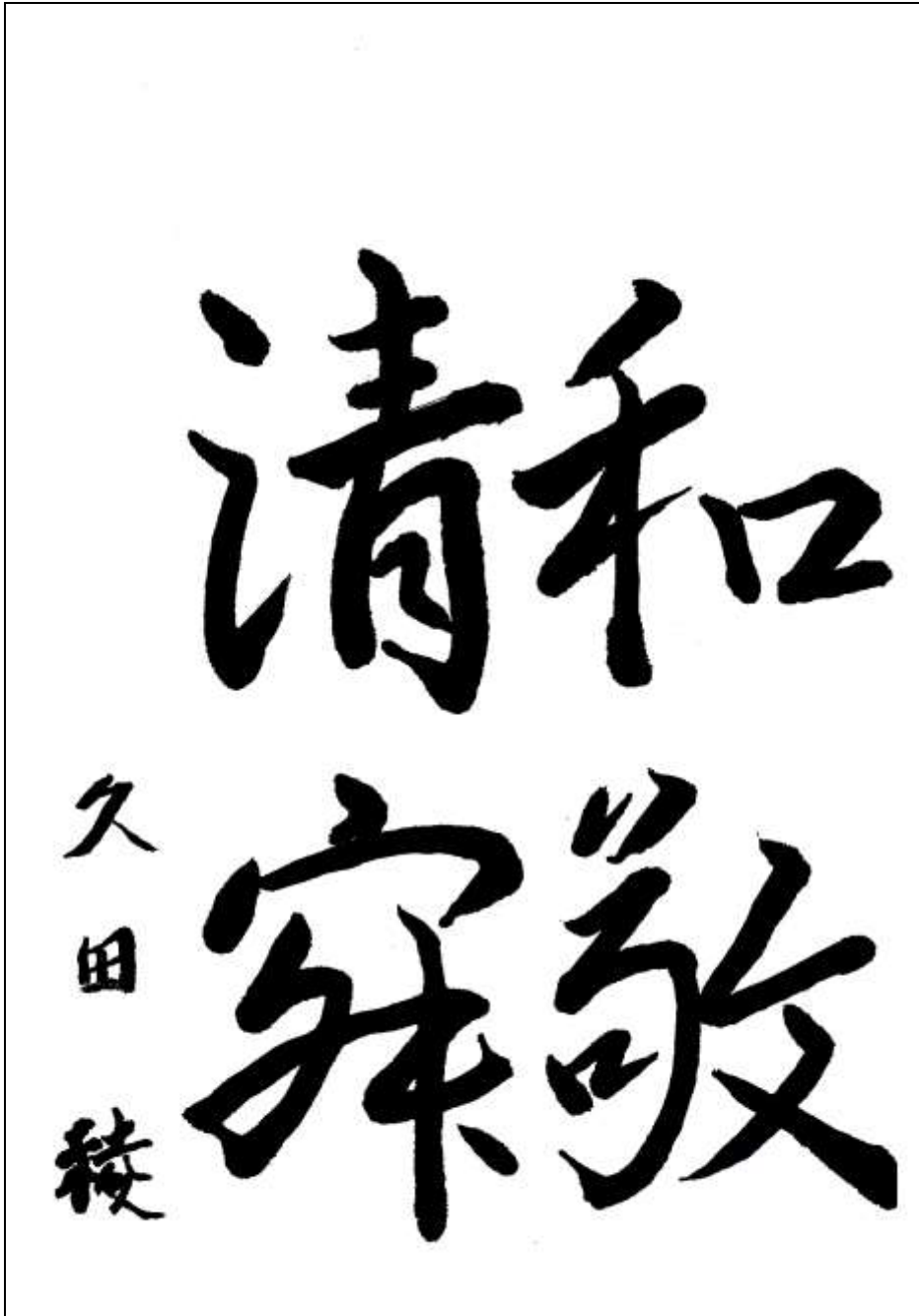
心 古
佛

内
山
行
央

中央の会 内山 行央さん作品Ⅱ 書

人感
生
内山行央

南の会 久田 稜さん作品 I 書



南の会 眞多 繁子さん作品 I 書



南の会 眞多 繁子さん作品Ⅱ 書



南の会 板垣 暁雄さん作品 I 書

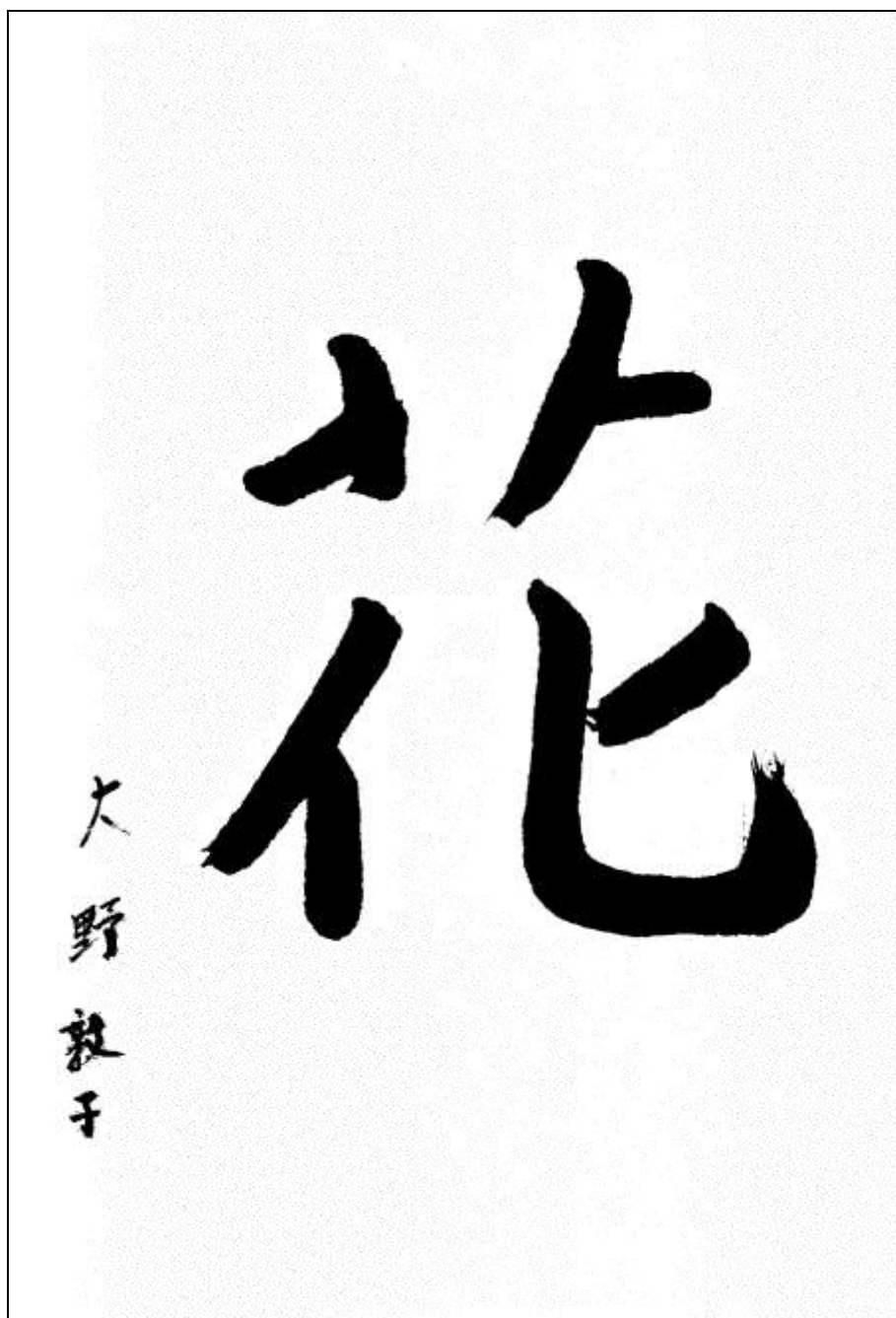


南の会 板垣 暁雄さん作品Ⅱ 書

運

板垣
暁雄

南の会 大野 敦子さん作品 I 書



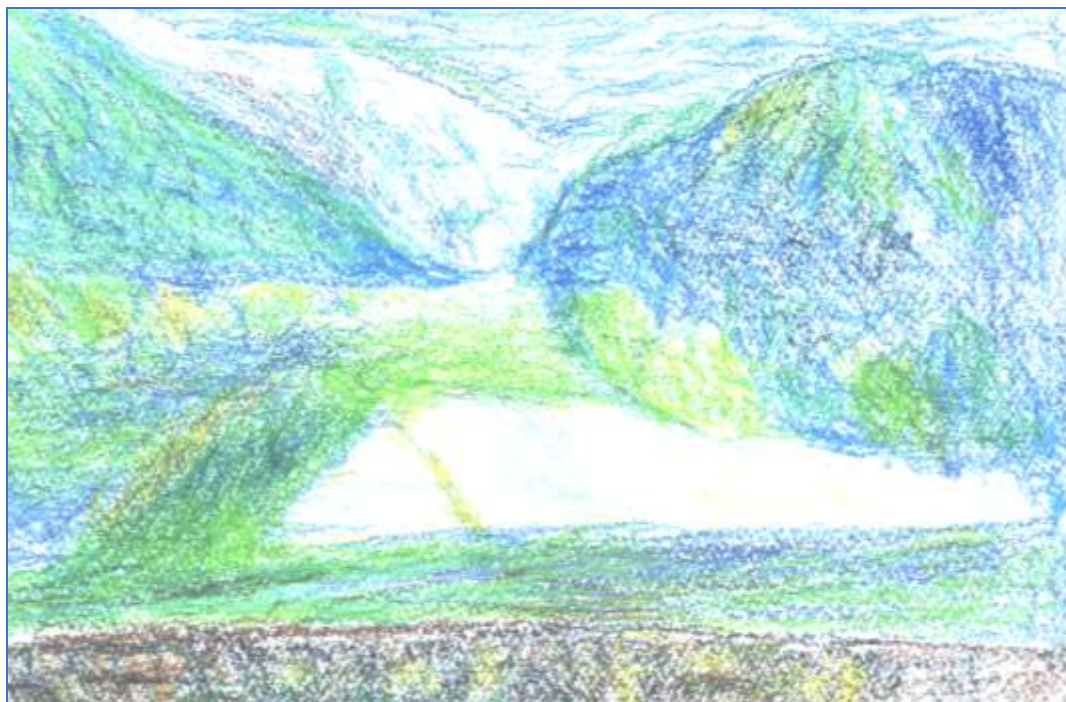
中央の会 小川 治男さん作品 絵画

JR 小海線



中央の会 猶原 晃さん作品 絵画

ある山と川



南の会 古山 久子さん作品 絵画

ボケの花

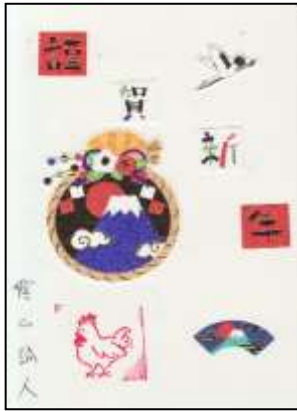


くちなしの花



手作り年賀状 I 南の会の皆さん

指導担当 菅原先生



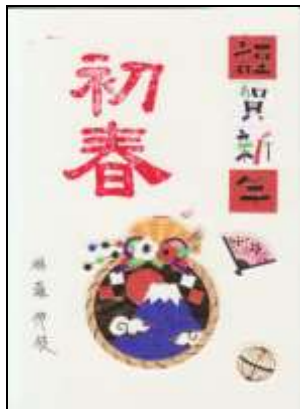
陰山 誠人



岩崎 邦雄



大堀 孝章



麻薙 伸枝



久保 勝利



古賀 國靖



中澤 秀樹



花輪 義昭



彦根 博

手作り年賀状Ⅱ 南の会の皆さん

指導担当 菅原先生



久田 稜



深沢 律子



古山 久子



真彦 繁子



宮原 静



手作り年賀状 Ⅲ 中央の会の皆さん

指導担当：山口先生、壬生先生



石井 忠勝



内山 行央



太田 忠良



大堀 孝章



小川 治男



近藤 栄治



猶原 晃



市政功勞表彰を受賞

南の会 中澤 秀樹

平成 28 年 11 月 20 日の市制記念日に、自治会長としてまた地区自治会連合会監事として多年に亘る自治会活動で地域の発展と住民の福祉向上の功績を受賞理由として加山市長から市政功勞表彰をいただきました(写真 1,2, 3)。

4 年半前に脳卒中を発症し、救急車で晃友脳神経外科眼科病院に搬送され 2 週間の入院、退院後は東芝林間病院で 3 年半の間リハビリを受け、約 1 年半前に東芝林間病院を卒業(?)しました。

2 年前に東芝林間病院の遠藤先生に失語症友の会を紹介され入会しました。この友の会では自分が話すことも大切ですが、会員皆様の話を良く聞いて内容を理解することも大切だと考えています。友の会は卒業(?)がないそうですから、今後もよろしくお願いします。

(写真 1) 加山市長から賞状を受け取る



(写真 2) 表 彰 状



(写真 3) 記念品の銀杯



平成 28 年度バス旅行会に参加して

中央の会 太田 忠良

平成 28 年 10 月 25 日、相模原市福祉バス（京王観光バス）で相模原市内の水族館、JAXA、市立博物館に行きました。参加者は家族含めて 25 名、バスガイドさんは昨年に引続き同一の人で親しみやすい感じです。

最初は水族館で、相模川の自然に親しむ施設です。アユの水槽が出迎え、相模川の小さい動物、正面にはタナゴの水槽がありました。右手を見たら、大堀会長がいました。近づいて見ると大きな水槽にたくさんのウグイがおり、エサをねだっているようでした。正面には川の流りに沿い魚が泳いでいました。そして周りが急にざわざわして、見ると幼稚園児でしょうか、小さい子供達です。退散の時間です。施設の前は夏に水遊びができるかなりのスペースでした。

次は JAXA です。お腹がすいてきました。食堂は職員の人達が利用するため昼食時は込み合います。メニューは「人参で作った星の輝きカレー JAXA ランチ」です。JAXA は人工衛星や小惑星探査機「はやぶさ」の模型、ロケットの模型がありました。談話コーナーではモニターがありオリジナルの番組を見ることができます。ひとまず、椅子で休憩。それから JAXA 正面、ロケットの前で記念写真です。次の場所までは徒歩移動です。

最後は博物館です。オオツノジカ的大型動物が迎えてくれました。相模原台地は学校で習った関東ローム層に覆われ、富士山から火山灰が降り積もったものです。旧石器時代は遺跡に橋本遺跡があります。自宅から 200m 先の八王子バイパスの真下にあります。また、相模川は生活になくてはならない自然環境です。相模原は畑作や養蚕等を中心とした農業の生活でした。相模原の身近な歴史を順を追って話す、博物館の説明員はとても上手な方でした。プラネタリウムは職員による星空の解説はスクリーンでしか味わえない壮大さ、スクリーンが大き過ぎて酔います。

これで相模原市内見物は終わりで水族館、JAXA、博物館の正式名称は「相模川ふれあい科学館」、「JAXA 宇宙科学研究所相模原キャンパス」、相模原市立博物館」でした。事前に下見をしてくれた大堀会長、古山さん、陰山さん、どうもありがとうございました。

上溝の歴史

北里大学東病院 言語聴覚士
安田 菜穂

子供の頃より、父の仕事の関係で転居を繰り返して育ちました。住んでいたのは、新潟県長岡市、東京都渋谷区、埼玉県富士見市、アメリカ・バージニア州、神奈川県藤沢市と、いつも転校生であったような気がします。結婚してからは、神奈川県内を何度か引っ越しました。その中でも長男の小さかった頃、10年間住んだ上溝は大変思い出深いところです。息子は地元の保育園（ひよこ保育園）に通い、道保川公園、亀ヶ池神社の辺りでカブトムシやザリガニを捕まえて育ち、「上溝に育てていただいた」ように感じられます。また、夏のお祭りも、これまで住んだどこにもなかった盛大さで、忘れられない思い出です。

病院で上溝在住の患者さんにお会いすることも多く、年配の患者さんから上溝の歴史をよく伺います。そんなご縁で、上溝の歴史を調べてみたくなりました。地元の皆さんはよくご存じのことと思いますが、ご勘弁ください。

上溝は幕末・明治初期以来、神奈川県北部の商業中心地の一つとして発展しました。明治3年に上溝市場が開設され、相模原・津久井・愛甲で生産される生糸が取引され、太平洋戦争中まで続きました（相模川から船で横浜まで運んでいたと伺ったことがあります）。旧上溝町の時代には、明治13年に上溝警察署分署（明治5年に上溝警察署に昇格）が開設、相模原町役場も昭和29年の市制施行直前まで上溝町役場を使用するなど、行政機関が上溝に置かれたそうです。

明治から昭和初期にかけて養蚕が盛んであった時期には、ほとんどの農地が桑畑として利用されていました。昭和30年代からは、近郊農業地域として野菜の生産や、屠畜場が置かれるようになりました。また、昭和30年代以降、上溝バイパス（国道129号）を挟んで隣接する田名地区には大規模工場を中心とする工業団地の建設が行われ、上溝地区にはその下請けを担う中小・零細規模の工場が散在するようになりました。

今年度も、失語症友の会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



仕事と趣味と…

相模原協同病院 言語聴覚士
樋口裕美

言語聴覚士になって、11年が過ぎようとしています。就職した頃は「先輩はすごいなあ」「私は働いていけるのかな」と毎日不安や焦りに追い立てられながら仕事をしていました。仕事を覚えるのに精一杯で、趣味もなく過ごしていたことを覚えています。そんな中、ここ失語症友の会をはじめ、病院の患者さん達とお話すると、お仕事を退職したあとも、病気をしてからも、それぞれ素敵な趣味を持って過ごされている様子が見えてきました。スポーツ、映画鑑賞、庭仕事、描画等々。退院後はそうした趣味をもう一度やりたい、と今後の目標にされる方もたくさんいらっしゃいました。そんなことから「今後の自分のために！」と趣味探しが始まり、友達に誘われるがまま、ボディボード、スノーボード、登山と続き、次第に自分の興味で落語鑑賞、楽器演奏、ランニングと色々やってみました。時間のないときこそ、そうした趣味を始めるタイミングであり、楽しみやストレス解消になったり、新たな人達との繋がりを作るコミュニケーションの一助となることを感じました。

数年前、失語症の患者さんを担当したときの出来事です。初めての評価のときに書いて頂いた字がとてもきれいだったので、思わず「学校の先生みたいな字ですね」と声をかけたら、なんと本当に学校の先生をしていたとのこと。お話を伺うと、私が卒業した学校の先生であったことがわかり、さらに同時期に在籍していたことがわかりました。うまく言葉が出なかったこともあったと思いますが、趣味のデッサンやスポーツ、お仕事をしていたときの話などからは、穏やかで向上心の高い様子や、それまでの人生で築かれてきたものが伝わり、失語症があっても失われないものを感じました。

コミュニケーションの手段には、音声言語だけではなく、書字やジェスチャー、表情など様々な手段があります。他にも、作った作品や写真、絵などもコミュニケーションの種となり、様々な人達との交流のきっかけとなるものと思います。友の会の近況報告では、どのような楽しみと過ごされているのか聞くのが楽しみです。そして、飽きっぽい私は未だに根気強く続けているものがないのですが、そろそろ長く続けられるような趣味を見つけて、これからも元気に仕事を続けていけるように頑張りたいと思う12年目です。

失語症友の会に参加して

さがみリハビリテーション病院 言語聴覚士
荒井 順子

はじめて『さえずり』に原稿を書かせて頂きます。私が相模原失語症友の会中央の会に参加させて頂いたのは、平成28年の1月からでした。気付けば年も変わり、あっという間な1年だったなあをつくづく感じる今日この頃です。

友の会に初めて参加したあの日。前日からソワソワと落ち着かず、緊張していたことを今でもはっきりと思い出します。言語聴覚士として1年。まだまだ右も左もわからないような私が、友の会に参加させて頂いていいのだろうか、私が皆様の力になれるのだろうかと不安を感じる反面、「退院後に失語症の方々が地域の中でどのように生活されているのかを知る貴重な経験ができる！」と楽しみに思う気持ちもありました。実際、友の会に参加させて頂くようになり、臨床の場面において患者様の退院後の生活について想像し、考えることが以前よりも多くなったように思います。病棟にいるだけではなかなか知ることのできない多くのことを、友の会で学ばせて頂いています。

今年度は当院の新入職の言語聴覚士3名が友の会の見学をさせて頂きました。多くの言語聴覚士に実際の友の会を知ってもらい、感じたことを臨床に活かせるように、そして失語症の方へ社会参加の機会として友の会を紹介してもらえるように、今後も継続して行えたらいいなと考えています。

初参加から1年、まだまだ未熟で皆様の優しさに助けていただいていたばかりの私ですが、今後も日々精進していきたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

一年を振り返って

東芝林間病院 言語聴覚士
菅原 洋 翔

南の会に参加させてもらって、1年が経ちました。言語聴覚士として東芝林間病院に勤めて4年目となる年に担当させてもらうことになったのですが、普段の1対1で行う臨床とは全く違う友の会の進行は毎回とても緊張しました。初めの数回などは皆さんから見てもはっきりわかる●●●●具合だったと思います。でも、そんな私に気さくに言葉をかけ、温かく迎え入れてくれた皆さまのお陰で、少しずつ緊張も取れました。1年間、本当にありがとうございました。

私は友の会では司会進行として、皆さんの何かしらの役に立とうと思い参加しているつもりでした。しかし、振り返ってみれば私の方こそ学ぶことが非常に多かったように思います。

大変だったこと、心配なこと、楽しかったこと、大事にされていること、友の会の会員の皆さんの近況報告をお聞きしていると、退院後の実際の生活を伺い知ることができます。そのお陰で普段の病院内の仕事でも、患者さんのそれぞれの症状や程度に合わせて退院後の生活で大切なことは何か、より具体的に考えてお伝えできるようになったと思います。もちろん、まだまだ皆さんの日々の生活のほんの一部しか知りませんし、不十分なことも多いので、これからも精進していきたいと思います。

最後になりますが、引き続き私は南の会の担当をさせていただきます。南の会の司会進行としては、なによりも、もっと楽しく会を盛り上げていくことを目指していきます。どうぞ皆さま来年度もよろしくお祈りします！



相模原市立博物館を見学

ボランティア 松木 蘭 一道

昨年10月25日に失語症友の会のバスツアーで市立博物館を失語症友の会の皆さんと見学いたしました。自宅から近いところに博物館はあるのですが、なぜか今までに1回も見学したことがなく、初めての経験でした。想像していたよりはるかに内容も建物も立派なものでした。

相模原市の成り立ちについては、今から6万年前以降に富士山と箱根山が数百年おきに噴火した際の火山泥流や灰がつもって現在の地形を形成しているそうです。人類が住み着いたのは氷河期のマンモスやヘラジカの大型動物を狩人が最初の人類で、それから石器時代、縄文時代、明治時代をえて現在の相模原市の形になっており、非常に有意義な見学会でした。

写真は博物館、氷河期時代に住んでいたであろう「ヘラジカ」です。



相模原市立博物館



ヘラジカ

手 芸 作 品

ボランティア 田口 さき子

藍染め布

ふくろうのブローチ



手びねり

つまみ三地蔵様



有言実行の 2016 年

さがみりハビリテーション病院 音楽療法士
越善 由佳

2016 年は 11 月に関東で積雪があり、2017 年は梅の開花が早かったり、寒くなったと思えば暖かくなったりと、音楽療法で季節の歌を歌おうと思っても、なかなか上手いタイミングで曲を出せずに季節の移り変わりに翻弄させられた 1 年でした。みなさんはどんな 1 年をお過ごしでしたでしょうか。

昨年のさえずりに「リハビリがてらカメラを持ってたくさん歩く！」といった目標を書いた覚えがあります。足の調子はますますですが、2016 年は季節を逃すまい！といろいろな場所へ出向き、カメラを片手に本当にたくさん歩いた年でした。カメラを通して見慣れた場所でも新たな発見があったり、カメラを理由に旅行をしたり、いろんな季節を感じ、充実した 1 年でした。有言実行の成果を数枚ほど…。

白山神社あじさいまつり



Disney SEA 15周年

青森市 ねぶたまつり



湯島の白梅とメジロ

技術はまだまだですが、2017 年も引き続きカメラ片手にいろいろな場所へ出かけたいと思います。日本は季節の細やかな移ろいを味わえるということが醍醐味ですね！今後の音楽療法でも、歌や曲を通してたくさん季節を味わっていきましょう♪

音でつむぐ、音でつながる瞬間...

デイサービス喜多 音楽療法士
平野 香穂

ひょんなことから再び友の会に参加させて頂くことになり、早いもので半年以上が過ぎようとしています。汗だくになりながら公民館へ向かった日、秋の空を見ながら歩いた日、木枯らしに吹かれながら向かった日、交差点でばったり佐藤さんとお会いした日...思い返すと、様々な出来事がよみがえります。それは、月に2回だけの相模大野への旅でもあります。「今日は、どんな近況報告があるだろう?」「今日は、どんな音楽を歌おう?」と思いながら、友の会の皆様にお会いできるのを心から楽しみに向かっています。

現在、私は川崎市多摩区にある高齢者デイサービスで音楽療法士として、毎日真面目に働いています。大変なことも沢山ありますが、「音楽で出会う!音楽で知る!音楽で紡ぐ!」という3つの思いを胸に、友の会の皆様から学んだことをフル活用して頑張っています。決して完璧な人間ではないので、間違いやドジを踏むこともしばしばあります。そのあたりは、大学生・大学院の頃から変わらない一面かもしれません。

社会に出て、「人」と「人」をつなげるのは、やはり音楽なのだと感じています。「音楽がつなぐ」もしくは「音でつむぐ」と表現したら変かもしれませんが、この言い方が1番しっくりしています。友の会で一緒にさせていただく「今、この瞬間」を、音楽を通して隣の席同士のつながりが生まれたら、皆様と音楽で紡いでいくことができたら...そんなことを考えながら、相模大野駅から歩いています。

まだまだ技術も人間としても未熟な私ですが、偉大なる越善先輩の背中を追いかけてながら、精いっぱい頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしく願います。

ありがとうございました。

昭和音楽大学 音楽療法コース 4年

松田春菜

昨年、4月から8月まで友の会の皆さんには大変、お世話になりました。友の会で音楽を行えたことは、学びの時間でもありました。はじめは「どのような曲を選べばいいのか」とか「何の曲が皆さんお好きなんだろう」と皆さんのことを考えながら、非常に悩んでいました。正直、毎月友の会に行くのが不安しかありませんでした。しかし音楽の時間を重ねていくことで選曲の範囲が分かるようになり「この曲をやってみよう」と自信がつくようになりました。また伴奏の弾き方を皆さんが歌いやすいように工夫したりしました。約半年の間で皆さんと音楽を通して、気づいたことがたくさんあります。

そして、選曲や進行を1人で行う難しさを学びました。そのような中で「毎月の音楽を楽しみにしている」といった声が聞けたり、友の会の皆さんの温かい雰囲気助けられていました。皆さんと音楽を共にした時間は、一生の思い出です。またどこかでお会いする機会を楽しみにしています。本当にありがとうございました。

4月からは、埼玉県の高齢者施設で介護職員兼音楽療法士として就職します。新しい環境で不安もたくさんありますが、大好きな音楽を通して一人一人が笑顔になる音楽の場を創っていけるように、日々精進していきたいと思っています。

最後に友の会の皆さん、古山さん、大堀さん、音楽療法士の越善先輩や平野先輩、ボランティアの皆様深く感謝申し上げます。

ある日の音楽療法風景



クラブ活動（習字教室）

習字指導担当 鈴木恵子
（ボランティアグループ 和みなみ 所属）

書道とのふれあい

相模原失語症友の会の皆様と書道を始めて24年（平成5年から）が過ぎました。始めた時は指導が出来るかしらと不安で一杯でした。会員の入替えはあったものの左手を強くする為、月1回の練習でも皆様休まず約2時間一生懸命練習しています。



その陰には奥様の手助け、運転して来られる事が本人は有難い事、夫婦二人三脚です。もう70代80代になって運転出来なくなったら終わりですからと話合っていますが、私もいつまで出来るか不安です。一番大変なのは、まずその人に合ったお手本を前もって書かなければならない（どこか所属して練習

いれば簡単なのですが）今はいろいろな本から手本を抜粋して書いています。時には同じ物をまた書いて皆さんから「前書いたよね」なんて云われ、ボケたかしら？とまたその場で手本を書いたり皆さんに助けられながらやっています。皆普段の努力によりそれが結果として表現出来る。やはり「継続は力なり」とすばらしい事です。会員の中には全国大会で（全国障害者によるコンテスト書道部門）で銅賞をとられたこともあり本人だけでなく会員のすべての励みにもなりました。

今年も新しい会員さんも増え頑張っています。和みなみの助手をやってくださる方も新しくなり、年4回の作品提出はあるものの皆で無理なく頑張っていくと思います。

この1年を振り返って

事務局 古山 高

今年度も市を始め社協、れんきょう、市内病院の言語聴覚士会の方々、その他関係団体等多くの皆さんに支えられて活動が出来ましたことにまずは感謝お礼を申し上げたいと思います。

新規会員につきましては10名の見学者がいましたが、その内6名が正会員として入会され、あと3名は音楽療法のみの入会となりました。今後も新規の仲間を増やす活動は大切なことでありますので、引続き関係各方面への声掛けを行って行きたいと思います。

今年度の行事計画で失語症カフェの開催、ミニ作品展の開催を計画していましたが、事前準備作業不足で進めることが出来ず開催することが出来ませんでした。失語症カフェについてはもう少し知識を充電して是非開催して行きたいと思っています。

3月18日(土)に南区地域福祉交流ラウンジで開催しました『ラウンジ福祉まつり』に参加して失語症友の会のパネル展示、チラシによる団体PRを実施いたしました。その時に市の障害者向けホームページ開設(運営はれんきょう)についてポスターによるPRを行いました。

今年度の大きな行事の一つであるバス研修旅行ですが、今回は地元の施設に行き見聞を広めて来ました。ふれあい科学館(水族館)では相模川の魚の生態、JAXA相模原キャンパスでは、宇宙開発等、はやぶさの模型、ロケット等について、市立博物館では、相模原台地の生い立ち、プラネタリウム見学等で特に博物館でのガイドさんの説明で相模原の生い立ちに皆さん関心が集まり、新しい知識を充電出来て満足のようなようでした。

新年度も引き続き会員の皆さんの声を聞きながら、更に充実した活動で有意義な友の会にして行きたいと思っています。新規会員の加入促進、若年化、市民を始め一般の方々に失語症を正しく理解していただくための啓発活動、失語症者が不自由なく生活出来るよう支援体制を作っていく必要がありますので、関係先に理解と支援を要請して行きます。また国、市町村が進める障害者と一般の人達が共生出来る社会の実現を目指す運動の一翼も担って行きたいと思っています。

平成 28 年度バスハイク

行き先：市内施設見学（水族館、JAXA 相模原、博物館）

日時：平成 28 年 10 月 25 日（火）

参加人数：25 名

今回のバスハイクは身近な市内施設を見学することになり、最初にリニューアルオープンした水族館で相模川の源流から相模湾河口までのそれぞれの場所で生きる魚の生態を水槽で見ながら、ガイドさんの説明を聞き魚の知識を新たにして、次に JAXA 相模原で JAXA ランチの昼食後見学、「はやぶさ」の展示を見て、屋外展示場で実物大ロケットの模型をバックに記念写真を撮ってから、博物館へ博物館ではガイドさんから相模原の生い立ちを興味深く聞いて大変勉強になり、最後にプラネタリウムを見学、きれいな星座を見て、中には疲れが出たのか、昼寝をして休憩を取った方もおられました。



(写真 1) JAXA 相模原キャンパスにて

水族館で元気に泳ぐ魚たち

撮影：南の会 花輪 義昭



相模原市主催障害者作品展

日時：平成 28 年 12 月 2 日（金）～4 日（日）

場所：あじさい会館 6 階 第 1,2 展示室

（写真 1）相模原市主催障害者作品展の様子



新年食事会

南の会：平成 29 年 1 月 10 日（火） 大野南公民館 コミュニティ室
中央の会：平成 29 年 1 月 21 日（土） 中央公民館 コミュニティ室

今年も恒例に従って、家族が準備してくれました食事を美味しくいただきながらしばし歓談をしてから例会に入りました。

南の会では

今年はどうな年にしたいか、それを漢字一文字で表現すると、皆さん一生懸命考えて書きました。

氏名	漢字	氏名	漢字	氏名	漢字
大堀	心	久田	柔	稲垣	光
岩崎	桃 (チャレンジ)	花輪	福	麻薙	歩
古賀	幸	大野	輝	久保	福
宮原	和	真彗	穩	古山	動
陰山	笑	中澤	楽	—	—



(写真) 南の会 新年食事会の風景

中央の会では

食事のあと自己紹介、近況報告を行ってから、恒例の JR 横浜線双六を楽しみました。

今年も太田さんが優勝して昨年に引続いて2連覇を達成しました。商品をもって喜んでいました。



(写真) 中央の会 新年食事会の風景



☆☆ 編集後記 ☆☆

作品集『さえずり』第28号発刊に際し、会員と家族、そして友の会を支えてくださる関係者の多大なるご協力をいただき、お陰様でここに発刊することが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

この『さえずり』を今後永く継続して行くために、皆さんの忌憚りの無いご感想、ご要望、ご意見をお聞かせいただけましたら幸甚に存じます。

さらに次号では今号以上の方のご投稿をお願い申し上げます。

この28号の編集・印刷作業を音楽療法担当平野先生と北里大学東病院の言語聴覚士の皆さんにご協力をいただき大変助かりました。ありがとうございました。

編集担当事務局：古山 高

さえずり第28号

発行年月日 平成29年3月28日

発行者 相模原失語症友の会

会長 大堀 孝章

